



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
学
生
ツムぐ

第43号

2017年8月23日

編集 濱島和也

(片葩小学校SP担当)

2017年8月23日

夏休みわくわく算数教室（後半戦）、スタート!!

大学4年生が教員採用試験試験で戦っているのと同じ時、片葩小のSPも子どもたちと一生懸命向き合っていました。そして、今日はSP卒業生の緒方先生（半田市成岩小）、柳原先生（武豊町衣浦小）、大羽先生（名古屋市鶴舞小）、依田先生（藤ノ花女学院）の4名の先生も応援に来てくれました。

現役のSPさんたちは、初めて会う子どもたちと少し緊張しながらも会話を重ね、少しでも分かりやすく子どもたちに算数を教えようとしていました。子どもの目を見て、温かい笑顔で教える姿は、間違いなく子どもたちの心に届いています。コピーに行くときにも担当の子どもたちを連れ添い、信頼関係をすぐに築いてしまうSPもいました。

その様子を見ていて、どうやったらこんなにすぐに子どもとの距離を縮められるのかと、ふと考えました。そして、依田先生の「子どもが相手でもおれは初対面だと緊張するよ」という一言で、答えが少し分かりました。初対面の子どもに対しては、現場に出ている教師ですら緊張します。だったら、子どもの方はもっとももっと緊張しているはずです。そんなお互いが緊張している中で、SPさんが自分の緊張の気持ちを抑えながら、一步勇気を出して、笑顔で話しかけてくれています。そのことが、子どもたちを安心させて、学ぶ場を整えているんだと感じました。子どもたちを緊張状態から「素」の状態にしてあげられることができる、これは教師としてとって大きな魅力だと思います。SPのみなさんは、「子どもが安心して話せる雰囲気を生み出す」という大きな武器を持っています。これからの3日間も子どもたちに安心して学べる場を作って上げてください。

また、この勇気は、子どもたちに対してだけでなく、仲間にも先生たちにも向けてください。校長先生を退職された中村先生や大澤先生、現場に出ている先生とお話する機会はなかなかありません。ですから、子どもたちに算数を教えていて疑問に思ったことや困ったことはどんどん聞いてください。本当にいい機会です。現場に出て同じ場面に出くわすことは、山ほどあります。それなら、現場に出る前にチャンスを生かしましょう。どの先生も快く答えてくださるはずですよ。また、仲間同士で情報交換をすることもとてもいい経験になります。ぜひ、困ったことや聞きたいことは、どんどん仲間同士で聞き合ったりしてください。

最後に、わくわく算数教室は本当に笑顔で溢れているなど改めて実感しました。SPと子どもたちの笑顔、SP同士のつながりの笑顔、先生方とSPをつなぐ笑顔。こういった温かい雰囲気がこのボランティアの最大の魅力です。SPさんの笑顔の力で子どもたちにすてきな夏の思い出を作ってあげてください。

